

文化振興事業の補助金交付団体が決定しました

町内の団体から公募していた文化振興事業について、審査会の結果が町長に報告され、次の2団体の事業が採択されました。文化振興事業は、地域文化の振興や地域文化に親しむ環境づくり、住民参加型の文化振興などの活動に対して20万円を上限に交付されるもので、各団体の個性豊かな事業に期待が寄せられます。

令和4年度 文化振興事業補助金採択団体

団体名	事業名（事業概要）
島の生活文化研究会	写真展「周防大島の海の生き物と漁撈具」
特定非営利活動法人周防大島郷土大学	宮本常一没後40周年／宮本常一関係資料山口県文化財指定記念講座「2022年の宮本常一」

■問い合わせ 社会教育課 ☎ 0820 (78) 2205



◆令和4年度高齢者叙勲
○旭日単光章（地方自治功勞）
野村 誠さん（久賀）
（元久賀町議会議員）

受章

ほのぼの苑盆踊り大会を中止します

毎年8月に実施しています「ほのぼの苑盆踊り大会」を新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止させていただきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

■問い合わせ 社会福祉法人さつき会 ほのぼの苑
☎ 0820 (74) 2100

明治時代から紡がれた周防大島とハワイの歴史



「瀬戸内のハワイ」として親しまれている周防大島。ハワイとのつながりは明治時代にさかのぼります。国策によるハワイ移民制度（官約移民制度）が始まると、山口県では周防大島からの募集に特に力を入れ、1885年（明治18年）の第1回官約移民では総勢944人のうち、周防大島出身者が全体の約3分の1を占めました。その後も官約移民（両国が認めた労働移民）3,900人あまりの人を皮切りに、多くの人々が周防大島からハワイに渡りました。

耕地で労働しながら共に励ましあう中で「ホレホレ節」などの民謡が生まれ、きびしい労働の日々を送りながらも日系移民の人々は社会的地位の向上に努め、次第に事業で成功を収める日系人も現れ、二世、三世の時代には、ハワイ社会の中核を担う人材を輩出するまでになりました。

1963年6月22日には周防大島とハワイ州カウアイ島で姉妹島縁組が締結されました。現在では締結日を記念して6月22日～8月31日の期間、色鮮やかなアロハシャツで正装する「アロハキャンペーン」が周防大島の夏を彩る風物詩となり、今年度からは周防大島高校の生徒さんもアロ

ハシャツを取り入れています。このアロハシャツによるおもてなしの取組は、1986年（昭和61年）から始まり35年以上続いています。

2007年にはハワイから伝統航海カヌー「ホクレア号」が日本航海の寄港地として周防大島に来訪。乗組員の方々との交流を通じてハワイ文化に触れたことを契機に、翌年2008年からは盛夏の毎週土曜日に開催される「サタフラ」ことサタデーフラが始まりました。

今年の夏も7月16日からサタフラが開幕し、8月27日までの毎週土曜日に開催されます。屋外の天然芝をステージに美しい星空のもとで披露される素敵なフラをご観覧ください。



問い合わせ 周防大島観光協会 ☎ 0820 (72) 2134

【P8ちよび塩クイズ答え：0.1g前後】
※何粒も食べてしまうと、塩分の取り過ぎになります。注意しましょう。